

東京 IPO 特別コラム

2019年6月11日 Vol.149

早く言ってよーのCMで話題を集めた企業

様々なビジネスシーンで最も頻繁に行われているのが名刺の交換。名刺交換はビジネスのスタートにあって、その後の運命を担う小さなツールに過ぎないが、問題はその管理にあった。積極的なビジネスマンほど名刺の数は増え、その管理が後で問題になることは言うまでもない。

「早く言ってよー。」という名ぜりふで話題を集めたテレビCMは私の脳裏に焼き付いている。そこで登場する個性派俳優の松重豊氏は今、孤独のグルメという番組などでも登場しサラリーマンの典型的なイメージを作っているが、このテレビCMで同氏が演じる営業部長風のせりふは日常よくある会社内での上司や部下の会話から出てくる言葉で印象深い。6月のIPO市場で話題を集めつつあるのが、この独特のTVCMで話題となった名刺管理ソフトのSansan(4443)。

同社は12年前の今日6月11日に三井物産で活躍していた現社長の寺田親弘氏によって設立された。法人向け名刺管理サービス「Sansan」及び個人向け名刺管理アプリ「Eight」の提供の2つのビジネスを行い、前5月期の年商は73億円余りになっている。前々期の売上が48億円余りなので5割以上の急成長を見せていることになる。今期も第3四半期までで既に前期を上回る76億円を売上げており、成長は続いている。これに対して利益は前期で30億円余りの経常赤字となっており、売上を拡大させるための先行投資を続けながらの事業拡大が見られる。

同社はマザーズ市場に6月19日、IPOを予定。主幹事証券は野村。同社の公開価格は4500円に決定しており発行済み株式数が2993万株と大型のため、上場時の時価総額が1347億円にもなるというから驚きだが、それだけの市場人気や成長性が備わっていると見ての価格だろうと推察される。ただ、そうした成長に見合うだけの収益が果たして出るのかは公開前のデータを見る限りはやや疑問が残る。それでも、グローバル指向で日本発世界企業の可能性を秘めるだけにその動向が注目を集めつつあると言える。それにしてもまだ利益がさほど出ていない中での時価総額1000億円超えの企業の登場には市場評価の面白さ、ダイナミックさを感じさせてくれる。昨年6月のスマホ向けフリマアプリを展開するメルカリ(4385)に続く大型IPOで市場は関心を持って迎えつつある。先行投資を優先させながらの成長を計画している企業と言う点では両社とも類似している。残念ながらメルカリはIPOの株価はやや元気がない状況だが、同社株はどうなるか。

果たして日本発の世界的企業となり得るのか、久々に話題を集めそうな同社の上場後の株価動向を皆さんとともに見守りたい。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)